





修学旅行



芸術鑑賞会



エンジニアリング系列



企業説明会



迫桜祭



体育祭



高文祭



総体



アグリビジネス系列



新年度

## 会員回想・近況報告

### 一生付き合える仲間づくりを

村松 三 次

(栗原 昭和五十六年生)

私は、昭和五十六年三月に栗原農業高校の農業科を卒業しました。卒業後は、地元のJAに長年にわたり勤務しました。六十歳定年の数年前に退職し、第二の人生を歩んでいます。現在、介護事業と不動産事業を興して七年目になります。今までお

世話になった方々に、御礼の気持ちで毎日仕事をしています。

思い起こせば、私が栗原農業高校に入学したのは、家業が農家で後継者として農業に夢を抱いて入学しました。当時、米価も一俵二万四千円台で令和のコメ騒動の今とほぼ同じ値段でした。あれから四十数年、減反政策の強化、農産物輸入自由化で、農家も時給十円程度でなんとかかんとか維持してきました。私も兼業農家として、米や野菜を作り、現在に至っています。最近では、高齢化が

### 挑戦することの大切さ

鈴木 桜

(迫桜 令和六年生)

私は令和六年三月に宮城県迫桜高等学校を卒業しました。卒業後は地元の介護福祉施設に就職し介護福祉士として介護現場で働いています。

迫桜高等学校を目指した理由は、介護福祉士の資格を取得し介護現場で働きたかったからです。

在学中は福祉教養系列で介護福祉士の資格取得に向けて勉強に励み、部活動は弓道部に所属していました。

高校生活を通して学んだことは多くありますが、その中でも強く印象に残っているのが「挑戦することの大切さ」です。迫桜高等学校への進学を目指すことを始め、生徒会活動、部活動等全てが私にとっての挑戦でした。その中で、失敗や挫折もありましたが、その経験の先には考え方の変化や成長等、自分の強みになるものがありました。学校生活の中には、勉強だけでなく、地域のボランティア活動等多くの挑戦するチャンスがあるといます。まずはその機会に気づくことが、自分の可能性を広げる第一歩になるのではないかと思います。

進み隣の田んぼを耕作するようになり、昔の倍以上の面積を耕作するようにになりました。農業は夢より「継続は力なり」かと思っています。高校時代の思い出としては、生徒会長として、各種行事の企画運営を行ってきました。新入生歓迎会、総体に向けた応援練習、上沼農高との定期戦、高校総体、栗駒山登山合宿、大運動会、文化祭、スポーツ大会、三年生を送る会、そして卒業式など、種々の行事がありました。特に思い出にあるのが、大運動会での大看板の作成や、稲杭で作ったやぐらの設置、一年から三年まで入り混じっての、棒倒しや土俵奪いなどは、流血するくらいの勢いでした。また、文

この先、楽しいことだけでなく挫折や失敗もあるかもしれません。挫折や失敗は挑戦した証です。失敗や挫折を経験しても、その時の心境や考え方の変化は学びや成長に繋がることもあるため、そのような経験も大切にしてほしいと思います。新しい自分に気づき、可能性の幅を少しでも広げていくためにより多くのことに触れてみてください。進路活動にも、社会人になってからも役立つと思います。

最後に、迫桜高等学校並びに同窓生の皆様の益々のご発展とご活躍をお祈り申し上げます。

重機やドローン、GPS測量機械など、実際の現場で使用されている最新の機器や技術を肌で感じる事ができました。

また、昨年度卒業された先輩方は「総合的な探求の時間」の一環として情報ビジネス系列と連携し、新山地区のコミュニティセンターの有効活用事業に取り組みでいました。自治会の方から場所を提供していただき、裏庭に人工芝を敷く造成工事を行いました。情報ビジネス系列では近隣のカフェにご協力いただき、ピザのメニュー開発を行いました。最後には「ピザ試食会」として土木のメンバーでピザ窯を作製し、情報ビジネスのメンバーが提供をして、新山地区の皆さんと一緒に楽し

く会を大盛況で終えました。その際の材料は人材育成費として同窓会より支出いただいたそうです。ありがとうございました。

今後もしも意欲的に授業に取り組み、少しでも多くのことを身につけ、進路目標の達成に向け勉強していきたいと思います。

### 生徒会長より、

### 総合学科として更なる発展へ

迫桜高校生徒会長

小野寺 心 月



宮城県迫桜高等学校生徒会長の小野寺心月と申します。

現在迫桜高校では、昨年十一月から新実習棟の建設や校舎の改修工事など、より良い高校生活が送れるよう日々進化しています。

これを機に迫桜生も心機一転し笑顔溢れる元気な学校にするには何ができるのか考えながら生活しています。昨年度からコロナも落ち着いてきて外部や地域の方々と関わる機会が多くなりました。

迫桜高校の生徒は、明るく元気で行動力があります。そんな迫桜生の良いところを活かし保護者の方々と地域の方々と連携していければ今以上に良い学校になると考えています。系列ごとの動きでは、情報ビジネスが地域の方々と協力して商品を開

化祭では、各学科や農業クラブや部活動の催し物は、自由で個性のある催しが多いようでした。

おかげさまで、今でも高校の同級生はもとより、先輩後輩とは、仕事上・プライベートでも付き合いをさせていただいています。高校生活の三年間は、人生の中で充実した日々を送っていたと今でも思っています。現役生の皆さんも三年間を充実して過ごしていただき、一生付き合える仲間づくりをしていただきたいと思います。

令和7年2月28日(金)本校アリーナにおいて、入同窓会式に参加しました。同窓会会長より挨拶をいただき、生徒代表中里咲紀くんが記念品を受け取りました。最後に第24回同窓会代表委員長小野寺一真くんが、同窓会入会にあって誓いの言葉を述べました。



第24回

発売り出しています。アグリビジネスでは、シクラメンやポインセチアなどの苗販売やアグリビジネスの生徒が育てた美味しい野菜などの販売を行っています。このように地域の方、保護者の方との関わりを増やし迫桜高校の良さを知っていただくとともに、迫桜高校内での生徒の動きも活発になっていけばいいなと思っています。

そして十月に行われる迫桜祭は、昨年と同様制限を設けずお客様をお迎えする予定です。生徒全員が「迫桜祭を成功させる」「迫桜祭に来たお客様に楽しんでもらう」という意識を持ち限られた短い準備期間で準備を進めています。中には夜遅くまで学校に残り準備を進めているクラスもありました。その成果もあり、昨年は多くのお客様が来校し笑い声や楽しそうな声で迫桜高校全体が明るい雰囲気になりました。今年の文化祭も楽しみにしていただくと嬉しです。

迫桜高校は、同窓会の方々、保護者の方々、地域の皆様に支えられ成り立っている部分が非常に多くあります。これから沢山の壁にぶつかることもあると思いますが、迫桜高校の伝統を守り、県内の数少ない総合学科として更なる発展へと繋ぐことができるよう努力していきます。

創立二十五周年の迫桜高校もどうぞよろしく願いいたします。